

## 全国演鑑連について

全国演鑑連（全国演劇鑑賞団体連絡会）は、1962（昭和37）年に発足した会員制を基礎とする演劇鑑賞団体である。その中心的理念は「日本演劇の民主的発展」とある。

前身は、1948（昭和23）年7月に東京で設立された東京勤労者演劇協同組合や1949（昭和24）年2月に設立された大阪勤労者演劇協会（大阪労演）など、各地で確立された労演組織。労音よりもスタートは早い。その後、労演の他に、市民劇場、労映演、演劇同好会、演鑑協、芸協といった名称で各地に演劇鑑賞団体が設立され、西日本演劇観客団体連絡会などの地方ブロック毎の連絡組織が結成された。1963年7月、国民文化会議などの支援もあり、全国の5つの地方ブロック組織を基礎として、全国演劇鑑賞団体連絡会議（全国労演）が発足。スタート時は45団体だったが、1965年には53団体、会員数10万人となり、2011年現在は全国12ブロック、149団体、約17万人の会員数である。

しかし、1948年の発足時の演目は『破戒』（島崎藤村・原作/村山知義・脚本・演出）。民衆芸術劇場（後の劇団民芸）の旗揚げでもあり、主役の瀬川丑松に宇野重吉、猪子連太郎に滝沢修、志保に山口淑子（李香蘭）などそうそうたる顔ぶれで上演された。

この上演は、既に昭和12年頃から水平社と原作者島崎藤村により計画されていた。が、戦争の激化によって上演は見送られていた。戦後すぐに上演が叶ったのは戦前からのこのような取組があったからに他ならない。

有楽座の初日には片山哲首相、参議院副議長松本治一郎が観劇。国会議員総見であり、観客動員には部落解放委員会や各地の労働組合を中心とした文化団体があつた。同作品は1948年秋から49年にかけて全国64か所、140回にわたって上演された。これが母体となって全国労演へと発展していくが、いつしか演劇鑑賞会の歴史の中からは、『破戒』の上演運動に関する記述は抹殺されている。また、同会は近年、バブル期を頂点として会員は減り続け、毎年一万人規模の会員減となっている。会員は純粋に「演劇を観たい」というだけで、「四つの女」発言に憤る会員は多い。

### 全国演鑑連での「しのだづま考」上演史

1993年 川崎市民劇場、盛岡演劇鑑賞会、長岡市民劇場、板橋演劇鑑賞会、横浜演劇鑑賞会  
いせ演劇鑑賞会、稲城演劇鑑賞会、新潟演劇鑑賞会

1994年 諏訪市民劇場、岡谷市民劇場、城北演劇を見る会

1995年 八戸市民劇場、ちば演劇を見る会

1996年 天竜演劇鑑賞会、

1997年 いいだ市民劇場、こまがね演劇鑑賞会、

1998年 川崎市民劇場、北アルプス市民劇場、松本市民劇場、上田市民劇場

1999年 喜多方演劇鑑賞会、所沢演劇を見る会、多摩えんかん、福島演劇鑑賞会、名古屋演劇鑑賞会

- 2000年 町田演劇鑑賞会、演劇を見る会あさかわ、高崎演劇鑑賞会
- 2001年 上越市民劇場、
- 2002年
- 2003年 いまばり市民劇場、前橋労演
- 2004年 須賀川演劇鑑賞会、酒田演劇鑑賞会、いせさき演劇鑑賞会、宇都宮演劇鑑賞会
- 2005年 ねりま演劇を見る会、長岡市民劇場
- 2006年 いわき演劇鑑賞会、ちば演劇を見る会
- 2008年 沼田演劇を見る会、しばた演劇鑑賞会
- 2009年 奈良演劇鑑賞会
- 2010年
- 2011年 長野演劇鑑賞会、上田市民劇場、まつもと市民劇場、伊那市民劇場、三多摩演劇を  
観る会、豊橋演劇鑑賞会、岡崎演劇鑑賞会、なのはな（愛西市）演劇鑑賞会、四  
日市市民劇場、津演劇鑑賞会、名古屋演劇鑑賞会、幸田演劇鑑賞会、大垣演劇鑑  
賞会、岐阜労演、尾北演劇鑑賞会、いせ演劇鑑賞会、いなざわ演劇鑑賞会、金沢市  
民劇場」、富山演劇鑑賞会、七尾演劇鑑賞会、高岡演劇鑑賞会、となみ演劇鑑賞会  
魚津演劇鑑賞会
- 2012年 京都労演、神戸演劇鑑賞会